

教職志望大学生の構成的グループ・エンカウターの 実施意欲に関する実践研究

平 宮 正 志

1. 問 題

(1) 現代若者を取り巻く二つの問題点

現代の若者の問題点の一つ目として、人間関係能力の低下傾向があげられる。ちなみに日本青少年研究所(2011)の日本・アメリカ・中国・韓国の高校生を対象とした他者(親・教師・友人)との関わりに関する調査では、友人関係において、一緒にだと気が楽で楽しいと高く評価しているにも関わらず「相談できる友人がいる」の肯定率が4カ国中最も低い。さらに親との関係も、自分の優秀さを、親が評価していることへの肯定率が、他の3カ国と比較して低く(アメリカ91.3%, 中国76.6%, 韓国64.4%, 日本32.6%), 教師との関係も相対的に希薄である。

また高校生の性行動に関する調査において、「間がもたない」ことが、交際相手を次々と変える理由として抽出されている。すなわち長い人付き合いが不得意という人間関係のあり方が、若者の性行動に影響を及ぼしている可能性が高い(木原, 2009)。ちなみに東京都幼・小・中・高心障性教育研究会の調査によれば、東京都の高校3年生の性経験率は、2002年時点で女子45.6%, 男子37.3%に達している(木原, 2006, p.3.)。さらに家族との会話が少ない高校生ほど、性経験率が高く、その傾向が特に女子生徒に表れている(木原, 2006, pp.73-76.)。

なお小学校における特別活動の目標として「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」(文部科学省, 2008a)の

記載がある。さらに中学校特別活動（文部科学省，2008b）および高等学校特別活動（文部科学省，2009）の目標にも「集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる」の記載がある。その記載を踏まえるならば，大学教育においても，人間関係に配慮したカウンセリング的手法が活用されなければならないと思う。それは未来の社会を担う大学生の，人間関係への意識や技法（スキル）を育むことでもある。

若者の問題点の二つ目として，自尊感情の低さが挙げられる。ちなみに平成 19 年 2 月発表の『低年齢少年の生活と意識に関する調査』（内閣府，2007）の「自分に自信がある」の問に対して，「あまりあてはまらない」または「あてはまらない」と回答した児童生徒は，小学生 52.6%，中学生 71.0%に達している。また日本青少年研究所（2011）の高校生を対象とした調査によれば，問「私は価値のある人間だと思う」に対する「全くそうだ」の比率は日本 7.5%，アメリカ 57.2%，中国 42.2%，韓国 20.2%，同様に問「私は自分に満足している」に対する「全くそうだ」の比率は日本 3.9%，アメリカ 41.6%，中国 21.9%，韓国 14.9%となっている。

（2）構成的グループ・エンカウンター研究の現状（以下 SGE と略記する）

SGE とは，ふれ合いと自他発見をねらい（目的）とした集中的グループ体験のことである。SGE は，様々なエクササイズとシェアリングを通して，このねらい（目的）の達成を試みる。ちなみに全国の教育委員会の 80%以上が，教員研修プログラムに SGE を取り入れている（國分・國分，2004，pp.2-3.）。

SGE の学級に関する先行研究は，國分・國分（2004，pp.594-625.）の資料編に多数掲載されている。成果的には，共感性（思いやり）の増加，教師と子どもの信頼関係の形成，個別の結びつきの強化，学級全体としての凝集性の高まり等の他，友達関係に対する肯定的な認知の高まり，対人関係の改善，自己肯定感の増加等，先の二つの問題点（人間関係能力の低下傾向，自尊感情の低さ）に繋がる成果も見出できる。

ちなみに近年の大学生を対象とした SGE 研究としては、坂本・藤野・大塚・石橋・森本（2006）や水野（2010）等がある。坂本ら（2006）では、SGE 参加前後において、気持ちや自己イメージ、さらにはオープナー・スケールの多くの項目で肯定的な変化が報告されている。また水野（2010）では、SGE 参加前後における私的自己意識や自尊感情での肯定的な変化が報告されている。それ以外にも、大学生を対象に多くの SGE 研究が報告されているが、SGE 体験に伴ういかなる傾向が、教職志望大学生の、現場での実施意欲に繋がるかを追究した研究は著者の知り得る限り存在しない。換言するならば、今後のさらなる学校現場での普及のためには、教育現場での実施意欲に繋がる SGE 研究が求められる。

なお著者がこれまでに執筆した SGE 論文は、①『エンカウンター・グループの小学生への適用』（平宮，1985），②『本校の教育相談活動の充実を目指して（構成的グループ・エンカウンターを活用して）』（富山県立大門高等学校生徒指導部，2002），③『中学 2 年生を対象とした詩作活用エクササイズの実践研究 ―アニミズムを背景として―』（平宮，2009），④『高校入学時の担任教師による構成的グループエンカウンターの実践研究』（平宮，2011a），⑤『「生きる」をテーマとした詩作活用エクササイズの潜在的効果を探る研究 ―構成的グループエンカウンターのエクササイズとして―』（平宮，2011b），⑥『高校生を対象とした詩作活用エクササイズの実践研究 ―構成的グループ・エンカウンターのエクササイズとして』（平宮，2012）の 6 編がある。

2. 目 的

SGE 体験に伴ういかなる傾向が、教職志望大学生の現場での SGE 実施意欲に繋がるかを、アンケートを通して調査することである。また SGE 直後の自由記述の分析を通して、大学生を対象とした SGE の体験傾向を探ることである。

3. 方 法

(1) 研究協力者

本研究の研究協力者は、著者が勤務する首都圏の大学で、講師兼 SGE リーダーをつとめた大学生 39 名（男子 24 名，女子 15 名）であった。なお性別未記入の学生が 1 名いたが，出席名簿の男女数より男性と判断した。また本授業は，3 年生以上の学生を対象とする授業であった。

(2) 研究実施日

2010 年 10 月 15 日 9:00 ～ 10:30

(3) 質問紙

紙上シェアリング及び効果測定の目的で，A4 版の質問紙（資料 1）を作成し活用した。

(4) SGE 実施の流れ

① 構成的グループエンカウターに関するオリエンテーション

- 1) 目的・・・ふれ合いと自他発見
- 2) 方法・・・リーダーの提示するエクササイズに取り組むという体験学習方式
- 3) 留意点・・・教材研究をしないで，体験にひたること。アイメッセージを心がける。
- 4) ルール・・・秘密保持（言いふらさない。この場限り。）
 - ・ペアリングをしない（いつも同じ人といない。）
 - ・非難や中傷のような発言は避ける（ふざけない。）
 - ・エクササイズしているときは，メモをとらない

- ② エクササイズとシェアリングの流れ
 - 1) バースデーライン
 - 2) 自由歩行
 - 3) 二人一組（質問じゃんけん・願望を語る）
 - 4) 四人一組（他者紹介）
 - 5) これまでの人生で影響を受けた出来事または人物
 - 6) シェアリング
- ③ 質問紙の記入（資料1）

4. 結 果

（1）5 件法の結果

質問紙の問1～問5の結果は、Table 1の通りである。なお問1～問5の5項目に関する信頼性は $\alpha = .798$ であった（石村，2005）。さらに問4を従属変数，問1・問2・問3・問5の4項目を独立変数とした最適尺度法によるカテゴリカル回帰分析（石村，2005）の結果，重相関係数 $R = 1.000$ ，さらに分散分析を行ったところ $F = 76334.579 > F_{(8,30)}(0.01) = 3.17$ であり，求めた関係式は予想に役立つものと考えられたので，独立変数4項目の標準化係数を掲載した（Table2）。なお分析には，SPSS 16.0 Japanese を用いた。

（2）自由記述の分析結果

自由記述（※ その他，今日の演習を通して感じたこと・気づいたことを書いてください。）の分析結果は，以下の通りである（Table3）。未記入者7名，及び「ない」と回答した1名を除いた31名の全文を掲載した。

なお分析は，記載内容をもとに著者が単独で行ったものである。また略字等に関しては，著者自身の判断で修正を加えた。

5. 考 察

(1) 5 件法の結果の関する考察

Table 1 の結果を踏まえ、以下の事項が考察された。

問 1「今日の演習は楽しかったですか。」に対して、「5 楽しかった」または「4 少し楽しかった」と回答した研究協力者が 37 名 (95%) おり、今回の演習が参加した研究協力者にとって、おおむね楽しかったものと考えられた。次に、問 2「今まで知らなかった人と知り合うことができましたか。」に対して、「5 できた」または「4 すこしできた」と回答した研究協力者が 36 名 (92%) おり、今回の演習が研究協力者にとって、今まで知らなかった人と知り合う機会になったものと考えられた。また問 3「今日の演習は、今後のあなたのためになったと思いますか。」に対して、「5 思う」または「4 少し思う」と回答した研究協力者が 33 名 (85%) おり、今回の演習が今後の自身のためになったと思った研究協力者が多数いたものと考えられた。

なお「1. 問題」でも述べたが、現代の若者の問題点の一つとして人間関係能力の低下傾向があげられる。今回は 3 年生対象の授業で実施したが、以上の結果を踏まえ、新入生を対象に SGE を実施することの有効性（新しい友達づくりや新しい環境への適応等）も推測された。特に大学教育は、小・中・高等学校教育と異なり、児童・生徒が一同に集う日々のホームルームのような時間や場が設けられていない。また大学教員の、学生の人間関係に対する意識も、小・中・高等学校教員と比べ低いように感じられる。

さらに問 4「あなたが教師になったとき、このような授業を展開してみたいと思いますか。」に対して、「5 思う」または「4 少し思う」と回答した研究協力者が 34 名 (87%) いた。この結果より、大学の授業での SGE 体験が、教員採用後の SGE 実施意欲に繋がるものと考えられた。

最後に問 5「このような演習を含んだ教育相談の授業を、今後も望みますか。」に対して、「5 望む」または「4 少し望む」と回答した研究協力者が 31 名 (79%)

おり、今回のような演習（体験学習）を含んだ教育相談の講義を、今後も望む研究協力者の意識が確認された。

（２）自由記述を通しての考察

次に自由記述（Table3）の「（１）新しい人間関係が形成できてよかった」及び「（３）よい授業だった（面白かった）」の分析結果から考察して、今回のSGEはおおむねポジティブに受け入れられると同時に、新たな人間関係づくりのきっかけになったものと推測された。

また「（２）気づきがあった」の内容記述から考察して、今回のSGEはただ単に楽しいというだけでなく、研究協力者に何らかの気づきを促進させる授業内容であったものとも推測された。ただ今回のSGEはただ１度の演習（90分）であり、人間関係強化のためには、複数回行うことが理想的であるとも考えられた。

ちなみに「１．問題」で述べたとおり、人間関係に関する記載が、小学校・中学校・高等学校学習指導要領特別活動編（2008a, 2008b, 2009）にあるが、それは大学教育においても留意すべきことである。特に現代社会は、情報機器（テレビやパソコン等）の発達に伴い、否応なしに他者とふれ合う時間が削られている。さらに膨大な情報に囲まれてしまった。そんな時代だからこそ、せめて授業ぐらい人間関係に配慮した展開が必要だと思う。それは問５「このような演習を含んだ教育相談の授業を、今後も望みますか。」の結果からも、うかがい知れる。一生懸命な姿に、人の心は感動し協力する（尾関，2004）。知識だけなら、テレビ、書籍、雑誌、新聞、インターネット等を活用しても獲得できるのである。

（３）総合的考察

総合的考察として、今回のSGEの授業への導入が、学生にとって極めて有意義なものであったものと考えられた。さらにカテゴリカル回帰分析の結果、教職志望大学生のSGEの現場での実施意欲（問４）に対しては、問３「今日の演習は、今後のあなたのためになったと思いますか。」が大きく影響しており（Table2）、「２．

目的」で述べた大学生の教育現場でのSGE実施意欲を向上させるためには、SGE体験が「ため」になったという意識を育むことの重要性が確認された。

しかし今回の研究からは、何が「ため」になったかという具体的な内容が把握できず、今後の課題を残す形となった。ただ自由記述の分析の結果、「新しい人間関係の形成」や「気づき」の効果が見出されており、「ため」になったに関する具体的内容が、「新しい人間関係の形成」や「気づき」に関する内容とも推測された。

6. おわりに

尾関（2004）は戦後教育の問題点として、“生徒に教える”という発想で成立していることを指摘している。換言するならば、児童生徒が自ら学ぶというよりも、親や教師が教授することこそが教育であるという発想である。なおピアジェ（Piaget, J.）は、子どもは本来、まわりの環境に働きかける能動的な力を有した存在である（藤井，2009）と主張している。この見識に立つならば、知識や態度を教授するだけでなく、学習者が自ら動き、自ら学び得ることこそが教育本来の姿といえるかもしれない。

SGEは集団による体験学習である。すなわちリーダーがメンバーに知識や態度を教授するというよりも、メンバー自らが学ぶところに大きな特徴がある。またエクササイズへの参加不参加に関しても、パスする権利を認めている。シェアリングに関しても、メンバーの発言を強要することはない。無ければ無いで、それもメンバーに意思の表れとして尊重する。すなわちメンバーの自主性を尊重しつつ、ふれ合いと自他発見を目指す。

ただしルールは順守する。そこには、横の人間関係と縦の人間関係が存在している。ルール設定等による縦の人間関係を確立した上で、様々なエクササイズを通して横の人間関係を形成していく。

おわりに今後の教育は、集団を通して自ら学ぶという発想を強く受け入れなければならないと思う。具体的には、協同学習（バズ学習、ジグソー学習等）（荷方，

2009), 社会奉仕活動, 集団討議, プレゼンテーション, さらにレクリエーション, 協同研究, 職業体験, ロールプレイング等があげられる。高校生ぐらいになれば, アルバイトやボランティア等も有効な教育的手段である。すなわち, 日常の仕事や活動, あるいはそれらを取り巻く環境の中にこそ隠れたカリキュラム(荷方, 2009)があるのである。そしてそのことに教育者自身が早く気づき, 学習を促すことである。受験や採用のための知識の教授や, 社会的に認められた態度や規則を提示するだけが教育者の役割ではない。指示待ち(受け身)でなく, いかなる社会環境においても適応でできるような, 自主独立した「生きる力」を育むことこそが, 現代の教育者の大きな使命といえるであろう。

付記

今回の研究は, 平宮(2011c)の一部に加筆・修正を加えたものである。

参考文献

- 藤井恭子(2009). 発達 服部環(監修)「使える」教育心理学 北樹出版 pp.22-45.
- 平宮正志(1985). エンカウンター・グループの小学生への適用 上越教育大学修士論文
- 平宮正志(2009). 中学2年生を対象とした詩作活用エクササイズの実践研究 ―アニミズムを背景として― 文教大学生生活科学研究, **31**, 129-137.
- 平宮正志(2011a). 高校入学時の担任教師による構成的グループエンカウンターの実践研究 二松學舎大学論集, **54**, 69-83.
- 平宮正志(2011b). 「生きる」をテーマとした詩作活用エクササイズの潜在的効果を探る研究 ―構成的グループエンカウンターのエクササイズとして― 二松學舎大学東アジア学術総合研究所集刊, **41**, 左 23- 左 39.
- 平宮正志(2011c). 教職志望大学生の構成的グループエンカウンターの実施意欲に関する研究 ―大学3年次配当の講義において― 日本カウンセリング学会第44回大会発表論文集 p.100.
- 平宮正志(2012). 高校生を対象とした詩作活用エクササイズの実践研究 ―構成的グループ・エンカウンターのエクササイズとして― 日本特別活動学会紀要, **20**, 71-80.
- 石村貞夫(2005). S P S Sによるカテゴリカルデータ分析の手順[第2版] 東京図書 pp.10-35. pp.94-117.
- 木原雅子(2006). 10代の性行動と日本社会 ―そしてWYSH教育の視点― ミネルヴァ書房
- 木原雅子(2009). 現代社会と若者の性行動 母子保健情報, **60**, 59-62.
- 國分康孝・國分久子(総編集)(2004). 構成的グループエンカウンター事典 図書文化
- 水野邦夫(2010). 構成的グループ・エンカウンターが自己概念の変容および個人・グループ過程に及ぼす影響に関する追試的検討 聖泉論叢, **18**, 149-161.
- 文部科学省(2008a). 小学校学習指導要領解説 特別活動編 東洋館出版社 p.8.
- 文部科学省(2008b). 中学校学習指導要領解説 特別活動編 ぎょうせい p.7.
- 文部科学省(2009). 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 海文堂出版 p.6.
- 内閣府(2007). 低年齢少年の生活と意識に関する調査
 〈<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/teinenrei2/zenbun/2-1-8.html#2-1-8-3>〉(2012年11月18日)

- 日本青少年研究所（2011）. 高校生の心と体の健康に関する調査～日本・アメリカ・中国・韓国の比較～
〈<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/research/2011/gaiyo.pdf>〉（2012年11月15日）
- 荷方邦夫（2009）. 学習指導と教育学 服部環（監修）「使える」教育心理学 北樹出版 pp.63-78.
- 尾関宗園（2004）. ウジウジするな！くよくよするな！あんたが一番えらいんや！ KK ロングセラーズ
p.98., p.116.
- 坂本洋子・藤野ユリ子・大塚邦子・石橋通江・森本淳子（2006）. 「人間関係論演習」における構成的グループ・エンカウターの有効性の検討 日本赤十字九州国際看護大学 intramural research report, **5**, 1-9.
- 富山県立大門高等学校生徒指導部（2002）. 本校の教育相談活動の充実を目指して（構成的グループ・エンカウターを活用して） 富山県立大門高等学校研究紀要, **11**, 33-47.

Table 1 質問紙（問1～問5）のクロス表（度数と%）

問1. 今日の演習は楽しかったですか。

	楽しかった	少し楽しかった	どちらともいえない	あまり楽しなかった	楽しくなかった	計
男	15(63%)	7(29%)	1(4%)	0(0%)	1(4%)	24(100%)
女	11(73%)	4(27%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
計	26(67%)	11(28%)	1(3%)	0(0%)	1(3%)	39(100%)

問2. 今までで知らなかった人と知り合うことができましたか。

	できた	すこしできた	どちらともいえない	あまりできなかった	できなかった	計
男	16(67%)	6(25%)	2(8%)	0(0%)	0(0%)	24(100%)
女	11(73%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
計	27(69%)	9(23%)	3(8%)	0(0%)	0(0%)	39(100%)

問3. 今日の演習は、今後のあなたのためになったと思いますか。

	思う	少し思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	計
男	15(63%)	5(21%)	2(8%)	1(4%)	1(4%)	24(100%)
女	6(40%)	7(47%)	2(13%)	0(0%)	0(0%)	15(100%)
計	21(54%)	12(31%)	4(10%)	1(3%)	1(3%)	39(100%)

問4. あなたが教師になったとき、このような授業を展開してみたいと思いますか。

	思う	少し思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	計
男	13(54%)	7(29%)	3(13%)	0(0%)	1(4%)	24(100%)
女	8(53%)	6(40%)	0(0%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
計	21(54%)	13(33%)	3(8%)	1(3%)	1(3%)	39(100%)

問5. このような演習を含んだ教育相談の授業を、今後も望みますか。

	望む	少し望む	どちらともいえない	あまり望まない	望まない	計
男	14(58%)	6(25%)	4(17%)	0(0%)	0(0%)	24(100%)
女	6(40%)	5(33%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	15(100%)
計	20(51%)	11(28%)	7(18%)	1(3%)	0(0%)	39(100%)

Table 2 問4を従属変数とする回帰式における標準化係数（ β ）

	問1	問2	問3	問5
β	0.115	-0.002	0.884	0.018

Table 3 自由記述の分析

(1) 新しい人間関係が形成できてよかった (8名)

- ・色々な人と会話ができて楽しく体験できた。新しい出会いがあって良かった。
- ・交流でいろいろ知れたり、自分の意見が言えて良かったです。
- ・知らなかった人と交流ができてよかった。
- ・今まで、知らない人と話す機会はなかったし、自分から作ることもなかったが、今回いろいろな人・考え方が知ることができて楽しかった。
- ・新鮮な考えに触れることができて、良かったです。
- ・言葉を聞いて理解するだけでなく、話さなくても意思のそつうによって、人とふれあうことで新たなふれ合いがもてて良かった。
- ・授業を受けているだけでは分からないことや、知らない相手と話すことによってコミュニケーションが積極的に取れていいと思います。
- ・知らない人と話すのは少し不安でしたが、思っていたよりも楽しく、心を開けて話すことができたのでよい体験になりました。

(2) 気づきがあった (7名)

- ・影響を受けたできごと、人物の多種多様さにおどろいた。
- ・実際に話してみないとわからないことが沢山ある。見た目ではわからない。
- ・小学生～高校生に対して、それぞれ適したエンカウターがあるんだと思った。
- ・言語活動により、良くも悪くも、双方の情報が伝わってしまうという点に、互いが思いやり、気をつけなければならないと、感じました。
- ・人との関わりを持つことの大切さを改めて感じる事が出来た。
- ・一人ひとりの話し方も違えば思うことも違うのだと思いました。
- ・自分だけだと思っていた経験や体験がまったく別の形で影響を受けていたりしている事を聞くと、すぐくおもしろく出来ているなぁと感じた。

(3) よい授業だった (面白かった) (6名)

- ・「人と人のふれあい」を感じる機会となり、実り多き授業となった。ペアリングをしやすい現代の若者が、視野を広げる手段になるのではないだろうか。すがすがしい授業でした。
- ・全部このような形式の授業だと、学べるし楽しいので希望します。
- ・シェアリングは必ずしも語る必要はないということや、先生の話はとてもためになった。
- ・思ったより、会話が弾んで、面白かった。
- ・楽しかった。
- ・このような演習があると、様々な人と知り合うことが出来るので自分としても成長できると思いました。

(4) 難しかった (4名)

- ・言葉を使えない状況でのコミュニケーションには少し戸惑ったが様々な方法があると分かった。
- ・何ものしに質問は難しかった。質問カードみたいなのがあったら面白かったと思う。
- ・4人グループだったのですが、自分の思いを話すことが、意外にも難しかったです。きちんと伝わっているのか、聞いてくれているのか、不安でしたが、たのしかったです
- ・バースデーラインにおいて、非言語的だと、事実を知ることではできても、感謝とか、感情を伝え

られないのが難点だと思った。質問じゃんけんでは、遠慮と親しくなるためという間で、どこまでふみこめるかはかれなかった。

(5) もっとやりたい (2名)

- ・もっとたくさんの人のことを聞いてみたいと思いました。
- ・まず第一に知らない人とたくさん話せて、嬉しかった。こういった授業を今後もやりたい。

(6) 今後に活かしていきたい (1名)

- ・知らなかった人たちとコミュニケーションをとれてすごく良かったし勉強になった。今回の演習を今後に活かしていきたいと思う。

(7) その他 (3名)

- ・初めての体験だったので、学ぶことが多かったです。
- ・ペアや、まわりの人がオープンな人だったので楽しくできました。人見知りのはげしい子にはフォローがいる授業形式だと感じました。
- ・ことばを使えないと、より「積極的に人と向き合おう」という気持ちが必要になってくると思った。人好きな私には楽しかったけど苦手な人には大変だろうな、と思った。その分 有意義ではあると思いますが。

・ない (1名)・未記入 (7名) 計 39名

資料1

構成的グループエンカウター振り返り用紙

0. あなたの性別に○をつけてください。 男 女

1. 今日の演習は楽しかったですか。



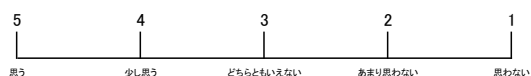
2. 今まで知らなかった人と知り合うことができましたか。



3. 今日の演習は、今後のあなたのためになったと思いますか。



4. あなたが教師になったとき、このような授業を展開してみたいと思いますか。



5. このような演習を含んだ教育相談の授業を、今後も望みますか。



※ その他、今日の演習を通して感じたこと・気づいたことを書いてください。